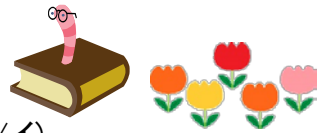


新着本案内3月号

愛知みずほ大学瑞穂高等学校
瀬木学園図書館



「ロンリのちから」NHK「ロンリのちから」制作班著 (116/ニ)
「感情に振り回されない技術」西多昌規著 (141.6/ニ)
「空想教室：好奇心を“天職”に変える」植松努著 (159/ウ)
「イチから知りたい!聖書の本」大島力監修 (193/オ)



「歴史を味方にしよう」童門冬二著 (210/ド)
「誰もがその先を聞きたくなくなる地理の話大全」おもしろ地理学会編(290.4/オ)
「名古屋さんぽ」(291.55/ナ)
「台湾・香港deワーキングホリデー」保谷早優玲著 (292.24/ホ)
「オーストラリアdeワーキングホリデー」小野田宗高著 (297.1/オ)



「高校生のための面接試験あなたならどう答える」(307/シ/2017)
「持続する情熱：青年海外協力隊50年の軌跡」(333.8/コ)
「10000円のカレーライス」日本財団CANPANプロジェクト編 (335.89/ニ)
「朝10分で差がつくちょこっと簿記」ふくしままさゆき著 (336.91/フ)
「伝わる!修造トーク」松岡修造著 (361.45/マ)



「野生動物カメラマン」岩合光昭著 (480.4/イ)
「費用・技術から読みとく巨大建造物の世界史」森山高至監修 (520.2/モ)
「世界一清潔な空港の清掃人」新津春子著 (687.9/ニ)
「スヌーピー、東京に行く!」チャールズ M.シュルツ著 (726.1/シ)
「オセロの勝ち方」長谷川五郎著 (795.8/ハ)



「植物たち」朝倉かすみ著 (913.6/ア)
「つまをめとらば」青山文平著 (913.6/ア) 直木賞受賞
「死んでいない者」滝口悠生著 (913.6/夕) 芥川賞受賞
「ヒガンバナ警視庁捜査七課STORY BOOK」日本テレビ原作 (913.6/ニ)
「異類婚姻譚」本谷有希子著 (913.6/モ) 芥川賞受賞

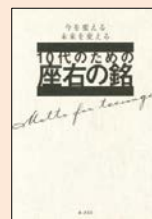


「陰陽屋恋のサンセットビーチ」天野頌子著 (913.6/ア/8)
「妖怪アパートの幽雅な食卓」香月日輪著 (913.6/コ)
「ファイヤーボール」富樫倫太郎著 (913.6/ト/1)
「最後の晩ごはん」榎野道流著 (913.6/フ/1)
「小説よ、永遠に」ダ・ヴィンチ編集部編 (913.68/ダ)



ニュース

新聞「MORGEN(モルゲン)」2016年3月号に、1年1組松田拓さんが寄稿した「10代のための座右の銘」の書評が掲載されました。ここで紹介します。(MORGENは雑誌コーナーにあります)



「10代のための座右の銘：今を変える 未来を変える」大泉書店編集部編 (159.8/オ)

皆さんは、自分の「座右の銘」を持っているだろうか。もし持っていないというならば、こんな本はどうだろうか。

『10代のための座右の銘』には、「今を変える、未来を変える」とサブタイトルにあるように、人生を歩む上での支えとなってくれようかな言葉が数多く載っている。過去の偉人や哲学者から今を輝く人物まで、古今東西問わず集められた言葉は、そのどれもが親しみやすく心に響くものばかりだ。

その中で私が好きなものは、古代ギリシアの哲学者ソクラテスの「世界を動かそうと思ったら、まず自分自身を動かせ」という言葉だ。この言葉に興味を持ったのは、自身の経験に思い当たる節があったからだ。小学生の頃の私は、考えるだけで動かない子どもだった。しかし、動き出さなければ何も始まらないと思い、今は行動を起こしている。長く続けている囲碁や水泳を通して友達が増えたり、水泳で培った胆力からすぐにくじけなくなった。だから、この言葉が心に響いた。

「座右の銘」は持ってみたいけれど、どれが自分に合っているのか分からないという人もいるだろう。そんな人にも、自分に合った「座右の銘」を簡単に見つけることができるようにチャート診断というのが掲載されている。

一寸先は闇というように世の中、灯台となつて未来を指し示すのはやはり「言葉」だと思ふ。確固たる支柱である戒めや模範となるような言葉があれば、苦境に立った時も自分を見失わずに済むかもしれない。

もうすぐ新年度が始まる今だからこそ、自分を変えてみようと思う人に、ぜひ本書を読んでもらいたい。必ずや人生の羅針盤を手に入れられるだろう。

1年1組 松田 拓

MORGENとは・・・先生と生徒が、共有する読書を柱とした、人間の生き方を考える新聞です。読書や社会情報を通し、子どもたちの視野を広げ、自ら社会の一員である自覚と、ものごとを客観的に見、聞き、考える目と心を育てることを目的としています。